



共生の時代

'11
9月

●発行:グリーンコープ共同理事会 ●編集:共生の時代・編集部 ●〒812-8561 福岡市博多区博多駅前一丁目5番1号 カーニープレイス博多3階 TEL092(481)7923 FAX092(481)7876



ふくおか青空市場「葉畑」代表

笠井 陽子 さん

「露」 地もののトマトだからヘタのまわりが青いけど、おいしそう！きゅうりは数が少ないから少しづつね。トラックから段ボールやコンテナに詰められた新鮮な野菜が降ろされると、笠井さん宅の駐車場は、あつという間に「市場」になる。集まったメンバーで仕分けしながらの野菜談義。「今年は雨続きで蜂が飛ばんから、柿のでき具合が心配やね」。産地と市場を結ぶトラックの運転手さんとも長い付き合いだ。

長崎・熊本・福岡・東京と転居のたび、それぞれの地で生協活動に関わってきた。福岡に戻ると、引越荷物も片付かないうちに10円玉を握って公衆電話に走り電話帳を繰った。「そちらの地域に配達ルートはないんです」。恐縮しながら対応する生協の職員に、笠井さんは「じゃあ、私が班を作ります」。それから4年の間に、周辺にはグリーンコープ生協ふくおかの前身生協の共同購入班が13班できた。1975年から近くの太宰府市東ヶ丘団地で開かれていたのが青空市場。生協の共同購入で葉物野菜の取り扱いがない頃、組合員が自主的に運営した青空の下市場は活気に満ちていた。笠井さんも、ここで土の香りのするほんものの野菜に出会った。

ところが共同購入で葉物野菜の取り扱いがはじまると、各地の青空市場は勢いを失いはじめ、存続が危うくなった。それでも青空市場の会員たちは「せつかつないだ縁を途切れさせてはいけない」と、話し合いを続けた。長年苦業を共にした生産者とのパイプをもとに、生協の支援を受けながら、青空市場を続けていく道を選んだ。

そして今から11年前「葉畑」を事業としてスタートし、会員200人で生協から独立した。今では野菜に限らずお茶やコーヒー、卵など取扱品目は30種を超す。事業が広がるにつれ増えたのは「葉畑」の事務局の仕事。「葉畑」スタート時に、引き受けることを迷っていた笠井さんの背中を押したのは、長女のひとことだった。「お母さん、やってみたら？」。生協の理事も経験し、奔走していた母親の背中を一番近くで見ていた。家族みんなで産地へ草取りや収穫にもよく出かけた。今では、夫や子どもたちの支えがとても心強い。

旬の野菜を丸ごと味わうことが生活の一部になり、多くのひととの出会いが人生を豊かにしてくれた。生産者や会員への事務連絡や相談など山ほどの苦労話は横に置き、笠井さんは気持ちを込め静かにつぶやいた。「私は生協に育ててもらいました。そして、出会った人たちが、すばらしかったんです。ほんとに」。

長崎県生まれ。長男、長女はそれぞれ結婚し独立。現在は夫と二人暮らし。ふくおか青空市場「葉畑」代表。夫とともにラグビー観戦が趣味。今は近くに住む長女夫婦の子どもの世話に追われる日々。グリーンコープ生協ふくおか組合員

プロフィール

青空市場が教えてくれたこと

秋の強化月間展開中



お米と野菜を食べよう!

Contents

酪農ホームステイ	2
うちのメーカー・うちの生産者 ⑩ JA菊池 産直びん牛乳	3
ネグロスとの連帯の25年 そしてこれから	4・5
グリーンコープ共生・平和長崎自転車隊 2011年度 第1回平和学習会	6・7
2011年度 第2回平和学習会	8
第15回「ビョンファ・エ・ダリ 韓国への旅」 2011年 子どもたちの夏	9
人と人との絆を結び 伴走してきた「抱樸館福岡」1周年	10
認可外保育所「元気の森こども園」 子育ての新たな支援はじまります	11

夏のまつりばやしコンテストに毎年出場していたわが子のグループが、グランプリを取りました。発表の瞬間、歓声があがり涙しながら肩を抱き合う子どもたち。一人ひとりの誇り(願い)が仲間との協同で、グランプリを得ることができたことに、喜びと達成感が満ちあふれていました。気持ちがあると自然と体は動くもの。自分の体は自身の気持ちで動かすものだ、私はその時つくづく思いました。先日私は、抱樸館福岡一周年記念式典に参加させていただきました。地域の方々に温



かく迎えられ、絆を大切に歩まれている様子に感動しました。そして、一人では小さな力でも、支え、支えられながら育み、大きなものとなっていくことをここでも実感しました。人は願いが叶った時、喜びと共に達成感も生まれます。その願いが仲間との協同で行われたら、なお一層の嬉しさとなります。そのことをおみやまの仲間たちと感じられる活動にしていきたいと思っています。

グリーンコープ生協おかもや理事長
黒田 明穂



えさの糞を集めます



子牛用の哺乳瓶に
ミルクを入れます



子牛はミルクをたくさん飲んだよ



汗だくになって糞尿の始末もしたよ

酪農ホームステイ 7/21~23

グリーンコープのめ産直びん牛乳の生乳生産者は、熊本県菊池地域農協の46戸の酪農家です。組合員と酪農家との交流の一環として、毎年夏休みに、グリーンコープの組合員の子どもたち(小5~中2)がホームステイして酪農の仕事を体験しています。2010年度は口蹄疫の影響で中止になったため、今年は待ちに待った開催となり、各単協から45人が参加しました。

子どもたちにとって初めて近くで見る牛、えさやりや牛舎の掃除、そして酪農家の家族の一員としてのふれあい。すべてが新鮮な体験だったようです。

酪農家の1日

酪農家は早朝から大忙し
5時前に起床し8時すぎまで
朝の仕事が続きます

- えさやり
牧場で自家栽培の粗飼料と
グリーンコープ指定の飼料
を配合して与える

- 牛床の掃除
- 搾乳
- 子牛にミルクを飲ませる
- 敷き藁の取り替え
- 生乳の出荷

昼間、牧場の仕事がない時も、
できるだけ牛舎にいますように
しています

- 牛たちの健康チェック
- 堆肥の手入れ

夕方、もう一度搾乳します

- 牛床の掃除
- えさやり
- 搾乳
- 翌日の用意

酪農ホームステイ1日目はJA菊池農業総合情報センター「パシオン」に集合し、工場では牛乳ができていくまでの説明や獣医さんから出された牛クイズで酪農のことについて学びました。その後生産者の方たちとの対面式があり、緊張していた子どもたちの表情にも笑顔が見られるようになりました。

自分から仕事を見つけ手伝いをし、質問したことはメモを取るなど酪農体験を楽しんでいました。休憩時間や夕食の時には生産者の方々が遊びに連れて行ってくれたり、バーベキューを用意してくれたりして家族同様に楽しいひとときを過ごしました。

3日目は解散式です。3人の子どもが感想を述べ、1人が代表で修了証を受け取ります。1日目とはまったく違い、子どもたちは生き生きとした表情をしていました。



搾乳の仕方も教えてもらいました

参加者の中から二人に
感想を寄せてもらいました

楽しかったホームステイ

グリーンコープ生協ふくおか 三原 結月さん(小6)



酪農家の子とも仲良くなりました

私はホームステイに行つて、牛の世話は命に関わる大切でいつも大変な仕事だと知りました。牛がフンをするときれいに取って牛のまわりをきれいにし、えさが重たいのに一人で運び、お乳を消毒するために使うタオルを洗い、毎日朝5時30分に起きて、一日中働いて、酪農家の人はすごいなと思いました。

私はお乳しぼりもさせてもらいました。まずタオルでお乳をふき、素手でしぼりました。お乳はざらざらしていました。あまり力を入れてはいけなかつたと思つたら、力を入れないとしぼれませんでした。初体験だったのでうれしかったです。機械でしぼる時、牛の目に涙がありました。なぜ泣いているのだらう?なんだかわいそうになりました。この体験で牛乳の大切さが分かりました。

友だちもたくさんでき、本当に楽しかったです。

酪農ホームステイを終えて

グリーンコープ生協ひょうご 津田 颯さん(小6)



ロールバールサイレージ(発酵させた飼料)の前で

昨年口蹄疫の影響で中止だった。5年生の3学期に社会科で畜産について学んだ。参加が楽しみになった。

僕が一番大変だと思ったことは「乳搾り」だ。何頭かごとに気の荒い牛がいて、搾り終えた後の消毒の時に蹴られたりしないように素早く終わらせなければならぬ。

楽しかったのは「牛のえさやり」だ。大きなミキサーで混ぜた飼料をショベルで押し出して柵の前まで運ぶ。牛たちはわれ先にと周りを押しのけてゾロゾロやつてくるのだが、そのようすがコントのようだった。

子牛の生まれる瞬間にも立ち会った。

3日目、朝の搾乳の後に帰る時間がきた。ぼくは正直まだまだ手伝いたかつた。酪農家の方々が色んな苦勞をして僕たちに牛乳を届けてくれていることがわかつたので、これからも大好きな牛乳を感謝して飲みたい。

うちの生産者



111
熊本県菊池市
JA菊池

うちのメーカー

もっとずっと
飲んでほしい

産直びん牛乳



工藤公男さん



肥沃な大地と豊かな水に恵まれた熊本県菊池地域の泗水、旭志、大津、合志地区に、グリーンコープの産直びん牛乳の生乳を生産するnon-GMO牛乳生産者会の酪農家が46戸ある。

泗水地区で酪農を営む工藤公男さん、息子の貴史さん親子に、酪農にかけける思いや、組合員との交流で感じたことなどの話を聞いた。

グリーンコープと出会ったのは1998年。当時、遺伝子組み換え作物の安全性や、環境、生態系への影響などが社会的な問題となっていた。安心・安全な生乳を安定して生産できるという先輩や仲間からの誘いを受け、non-GMO（遺伝子組み換えでない）飼料の乳牛を育ててほしいというグリーンコープ組合員の思いを知り、グリーンコープの牛乳生産者となった。

non-GMO飼料に変えると、最初の飼料が体質に合わなかったのか、若い乳牛が次々と死んでしまった。しかし、何として

公男さんの両親は養蚕業を営んでいた。「親とは違うことをしたい」という思いから一念発起、酪農を志す。農業高校を卒業した1969年、4頭の乳牛を飼うことからスタート。酪農業で成功を収めている先輩たちに少しでも追いつこうと、アドバイスをもらいながら試行錯誤を重ね、一意専心努力していった。

そんな父の背中を見て育った貴史さん。幼い頃から牛の世話に生活の一部だった。「酪農に携わっていきたい」という思いから大学で酪農を専攻。卒業と同時に家業を継ぎ、8年前から両親と共に60頭の乳牛を育てている。



工藤貴史さん

も乳質・乳量や繁殖率など安定できる方法がないものか模索。あらゆる手立てを見つめようと、生産者同士、力を合わせて技術的な課題を克服し、安定して生産できるように



トウモロコシ収穫体験で、組合員から「おいしい牛乳ありがとうございます」というメッセージが手渡された



スイートコーンを大鍋で茹でて食べながら交流した

現在の、主に牛の世話を行っているのは貴史さんと母親の峯子さん。公男さんは主に農作物の管理に回り、徐々に息子へのパトナタッチをすすめている。

今年の7月、「できるだけもっとたくさんさんの組合員と交流したい」と、公男さんは飼料用トウモロコシの畑にスイートコーンを植えて、地元グリーンコープ生協くまもと組合員を対象に「トウモロコシの収穫体験」を呼びかけた。初めての試みに「参加があるかな?」という企画は地域の組合員さんにどういうふうな受け止められるのだろうか?と、

親子で不安を覚えたという。しかし、そんな心配をよそに、当日の参加者は約400人と大盛況。作付けした6,000本のスイートコーンすべてを収穫することができた。

収穫後はスイートコーンを大鍋で茹でてみんなで食べた。「おいしい! 甘〜い!!」という声が続々と聞えてきた。「準備で当日まで大変だったが、みんなが笑顔でスイートコーンを食べているようすを見て、とても嬉しかったです。やってよかったと思います」と、貴史さん。「これまでとは違う交流で、新鮮な取り組みになりました。いろんなかたちで顔の見える関係が続けていきたいですね」と、公男さんは目を細める。

組合員との関係を大切に

貴史さんは「会社勤めの働き方とは違い、個人で責任を負うことの厳しさがありませんが、その分やりがいもあります。手を掛けたり、掛けただけ返ってくるのが酪農の魅力です」と力強く語る。数年前には、non-GMO牛乳生産者会の役員を務め、組合員との交流などに関わった。「組合員のみなさんはよく勉強されていて、グリーンコープの牛乳にこだわりを持たれていることが伝わってくる。こちらでもいいものを出さなければと、ますます牛の世話に力が入ります」と貴史さん。

酪農家の仕事は、早朝5時過ぎから夜の7時まで。餌やり、牛床の掃除、搾乳の作業を、朝と夕方の2回行う。その合間も敷き藁の取替えや、堆肥の手入れ、飼料や農作物の管理など、一日も欠かすことなく行っている。

中でも一番大切なことは牛の健康管理だ。元々ホルスタインは涼しい気候に適している畜種で、暑さに弱い。特に夏場は乳量が落ちるため、大型扇風機で牛舎の通気性をよくしたり、牛の体に霧状の水をかけて冷やすなど、さまざまな工夫をしている。

また、1年を通して、牛の餌となる飼料用トウモロコシと、牧草（イタリアンライグラス）の作付けや、自家用野菜なども栽培している。



1980年代半ば、国際的な砂糖価格の暴落で、砂糖労働者の多いフィリピンのネグロス島で15万人ともいわれる子どもたちが飢餓に陥りました。グリーンコープは日本ネグロス・キャンペーン委員会（以下、JCN^{※1}C）と連携し、緊急カンパで終わらせることなく、ネグロスの人々が自立していくための支援のあり方を共に考えながら、25年という長い年月を歩んできました。

7月11日から15日まで、「日本ネグロス連帯25周年記念ハロハロツアー」が行われ、グリーンコープからは組合員、事務局含め8人が参加しました。

15日の記念式典のようすと、25年の歴史を振り返り、ネグロスの今をお伝えします。



ネグロスとの連帯の25年 そしてこれから

日本ネグロス連帯25周年記念の集い

フィリピンの西ネグロス州のタリサイ市で日本ネグロス連帯25周年記念の集いが開催されました。テーマは「過去を振り返り、現在を祝福し、未来のチャレンジに向かって」。現地のオルタートレード社（以下、A^{※2}TC）をはじめ、ネグロス島内からはマスコバド糖、ネグロスバナナの生産者やパッキング労働者、25年の連帯に関わった人々、そして、日本からは、AP^{※3}LA、AT^{※4}J、グリーンコープなどから、総勢1000人を超える人々が参加し、25周年を祝いました。

海を越え共に考えた25年

最初にATC副社長のレ



イ・テネフランシアさんが、「今日は特別な日。関わってきた人たちの喜びや悲しみなどの思い出を聞き、今の私たちの活動や仕事に当初の信念に基づいたものになっているか振り返りたい。ネグロスとATCは日本のみなさんに感謝しています」と歓迎の意を表わしました。バナナ生産者を代表してパンダノン村のドロレス・セラルボさんは、「私たちと日本はバナナを作る、買うという関係を越えて、どうやってさらにおいしくするのか、どうやって農民の生活を変えていくのかを一緒に考えてきました。小さな夢だけれど、海を越えた仲間がいたから叶えてくれたのだと思います」と笑顔で挨拶をしました。

る秋山眞兄^{なまえ}さんが開会の挨拶をしました。「東京電力の原子力発電所の事故による放射能が今、日本の子どもたちを容赦なく襲っています。ネグロスの人たちが生き延びるために必要な手段だった無農薬のバナナは、今後放射能汚染の心配のない食べものとして、日本の子どもたちにとって重要な食糧になると思います。今日は新しいネグロスと日本の連帯のはじまりと希望を共有する場です。25年前の連帯がはじまった時に語られた「連帯は大きな力によって生み出されるのではない。小さな助けあい、小さな愛によって育ち、実現する」という言葉を胸に、私たちはもう一度原点に立つべき時なのだと思います。その後、映像で改めて25年の連帯の歴史を振り返りました。

「基調講演」互恵と連帯、25年目の新たなスタート

ATJの代表取締役で、25年前のJCN^{※1}C設立時に事務局長だった堀田正彦さんと、現在ATCの社長で、人生の大半を民衆運動に携わってきたというノルマ・ムガールさんの二人が講演しました。

●堀田正彦さん

マスコバド糖やネグロスバナナを共同購入しようとはじめて言ってくれたのは



ノルマ・ムガールさん



堀田正彦さん

●ノルマ・ムガールさん

現在の若いATCのメンバーに連帯をつなぎたいという強い思いで、一度リタイアしたATCに復職しました。今回パンダノン、エスペランサ、カネシゲファーム・ルーラルキャンパスを久しぶりに訪れ、夢を叶えてきたさまざまなストーリーや、若い人たちが誠実に農民になろうとしている姿に感動しました。若い皆さん、自由を合言葉にこれからも互恵と連帯について共に考えていきましょう。

連帯の未来へチャレンジ

基調講演の後、「連帯の未来へ夢とチャレンジ」というテーマで、参加者からそれぞれの思いが発表されました。その中で、最も若いジョネル・ベントーラさん（20歳）は、「カネシゲファームをあらたにルーラルキャンパスに変えていく立ち上げ作業から関わりました。先輩に養豚技術の特訓を受け、現在キャンパスで150頭の豚を飼っています。将来は養豚農家になって、親を助け、兄弟を学校へ行かせ、地域で他の農家を支えられるようになりたい」と夢を語りました。



▲カネシゲファーム・ルーラルキャンパスで学ぶ若者たち。2列目中央がジョネル・ベントーラさん



設備が整った豚舎とは別に、キャンパス内に地域で養豚する時のイメージで豚舎を作り、豚を飼育しています

※1 JCN^{※1}Cが2008年にその役割を終えたとし、日本を含むアジア各地で農業・漁業を軸に「地域自立」をめざす人々との出会いをつくり、経験を分かちあい、協働する場をつくり出すことを目的に設立

※2 ネグロスで民衆の生産物を流通させる自前の地域物流システムを作ることをめざして設立

※3（あぶら）JCN^{※1}Cが2008年にその役割を終えたとし、日本を含むアジア各地で農業・漁業を軸に「地域自立」をめざす人々との出会いをつくり、経験を分かちあい、協働する場をつくり出すことを目的に設立

※4（オルタートレード・ジャパ）バナナやえびの交易を通じて、「オルタナティブ」な社会のしくみや関係をつくり出そうと、生協や産直団体、市民団体により設立

※5 自然循環型農業を提案した故 兼重正次さん（元グリーンコープ連合専務）を偲んで名づけられた農場。2009年7月から、統合的な有機農法を取り入れ、次世代の若者が農法や技術を学ぶ実践農場として再開

これまでのネグロスとの連帯を 希望と共に未来に紡いで

共同体代表理事 田中裕子さん



日本とネグロスの25周年を祝う記念行事に参加して、心に残ったことがあります。グリーンコープの先輩組合員が、一人の母親として、飢餓に苦しむ子どもたちを救いたいという強い思いからはじまったネグロスとの連帯が、25年という時を経て、今日までグリーンコープの組合員に広がり、受け継がれていることに改めて、グリーンコープの理念である「四つの共生」の一つ、「南と北の共生」が実現できていることに、私自身一人の母親として、深い感慨を覚えました。これまでの連帯を紡いできた、バナナ生産者、エスペランサの農民の方々、カネシゲファーム・ルーラルキャンパスの人たち、オルタナトレードの皆さんとこれまでを語り、今を祝い、未来の夢を語り、これからの未来にその夢を紡いでいけることに、日本に暮らし生きていく私たちも、大きな愛と希望を感じることができました。

ネグロスとの25年の連帯を 受け継ぎ、語り継いでいく

共同体組織委員長 大橋由美子さん



25年という年月はおよそ一世代分に当たります。その間ネグロスでは、大人は飢餓や大地主らとの戦いを終え、子どもたちは飢餓を乗り越えて青年になっています。ATC社のノルマさんは「今日は日本の皆さんと連帯の歴史を振り返るこの場に、若い社員をたくさん参加させています」と、バナナ生産者のリトさんは「25年の間に亡くなられた方も含めて多くの出会いがあったからこそ、今の自分たちがある」と挨拶しました。カネシゲファーム・ルーラルキャンパスの青年たちは、銃口にひるまなかった親の戦いを聞いて育っています。今では養豚や野菜作りを故郷に持ち帰りはじめ、ネグロスの希望と呼ばれる存在になりました。今回の旅で、グリーンコープの先輩方がネグロスの人々の思いを尊重しながらつくってきた連帯の意義を体感できました。誇らしい取り組みとして語り継ぎ、共に未来をつくっていききたいと思いました。

ネグロスと「連帯」の歴史



990年の台風でバランゴ

その緊急支援のため、25年前の1986年2月、J CNCが設立されました。カンパが集まる中、ネグロスからは「必要なのは魚ではなく、魚を獲る網なのです」とメッセージが発せられ、呼応するように、1987年、グリーンコープの前身生協は、支援を続けるためにもカンパという一方的なものでなく、生協の



長い間欧米の植民地だったフィリピン。ネグロスに商品作物として砂糖が入ってきたのは150年ほど前。人口のわずか3%程の地主が耕作面積の7割の土地を所有し、砂糖生産のためにさとうきびを栽培していました。1980年代、砂糖の国際価格の暴落は、単一の商品作物栽培に頼る経済のもろさを露呈。多くの労働者を失職させ、子どもたちを飢餓に陥らせることになりました。

ネグロスの悲劇

運動となる商品をと、ネグロスで作られていたマスコバド糖を共同購入することにしました。組合員はネグロスに行つて、飢餓に苦しむ子どもたちを抱き、労働者の家に泊まり、その悲劇を実感しました。ネグロスの人たちとの出会いから、組合員は「北」の世界の生活が「南」に生きる人々を犠牲にしていることに気付きました。単なる緊急支援ではない「連帯」のはじまりでした。

民衆交易のはじまり

マスコバド糖は輸入されました。しかし、設備の整っていない中で作られたために異物がたくさん混ざっていました。その時、故兼重正次さんは「お互いが豊かにならなければ意味がなくこの関係は続かない。だからマスコバド糖をきれいにしよう」と品質をよくする目的を明らかにしました。また、その頃日本では、

農薬漬けのバナナが問題となっていました。「母親が安心して子どもたちに食べさせられるバナナを送ってほしい」と話したことからバナナの民衆交易がはじまりました。1990年、初めてネグロスのバナナが日本に届きました。届いた真つ黒なバナナに落胆の声がある中、兼重さんは「まずは届いたことを喜ぼう。次は

黒くならないようにしよう」と言い、努力が重ねられていきました。

しかし、1990年の台風でバランゴ

ンバナナは壊滅状態に。回復しかけた1993年には連作障害による被害（パンチトップ病）を受けます。そこで、有畜複合で循環型農業をめざす実験研修農場（カネシゲファーム）が建設され、現在のカネシゲファーム・ルーラルキャンパスへとつながっていきます。また同時に、バナナの価格にプラスされた自立基金の一部を活用し「循環のある農業・地域づくりをめざすPAP21（ネグロス民衆農業創造計画）」がはじまりました。

「連帯」と自立への道

ネグロスの人たちの自立を阻んでいたのが土地問題。「耕す土地が欲しい！」民衆は声を上げ農地改革闘争を起しました。1988年、包括的農地改革法が制定されたものの、農地解放を拒む地主は私兵を雇い激しく抵抗しました。その闘争の中で2003年、エスペランサのジョニー・ガイランさん（29歳）が射殺されたという事件が起こりました。グリーンコープは、J CNCの呼びかけで緊急の集会を開き、支援活動のためのカンパ、フィリピン大統領や農地改革省長官へ抗議のはがきやファクスを送る取り組みを行いました。その後、フィリピン政府は農園の中に監視所を設置し、

農民は警察官が見守る中で農作業が行えるようになりました。しかし、何世代にもわたる賃労働で自ら何かを生み出そうとする意識を持てずに、労働者として地主側に残り、親類同士が引き裂かれた人々もいます。



「PAP21」の取り組み

しかし、「今は敵ではない。一緒にやりたい」と言えば、私たちは受け入れる」とある生産者は話しました。

2003年、隣のセブ島に視察に行ったネグロスの農民は大きな衝撃を受けました。自分たちとさほど変わらない環境の中で、自信と誇りを持って農業をし、収入をあげている農民に出会ったのです。セブ島の農民と交流して実践を重ね、ネグロスにもようやく自立的な農民集団が誕生しました。

ネグロスの今とこれから

現在エスペランサでは、さとうきびを有機栽培し、砂糖精製後の残渣を使つて堆肥を作る循環型農業を実現させています。米や野菜も作り、農民の生活は少しずつ良くなっています。

パンダノン村は、2004年の病害虫でバナナが壊滅した後、最も早く回復させることができました。村長を中心にみんなが協力し



カネシゲファーム・ルーラルキャンパス

今、「ネグロスの農民」はそれぞれの生産物ごとに組合などを作り、横のネットワークを結んで、助けあつて生きていくことにチャレンジしています。

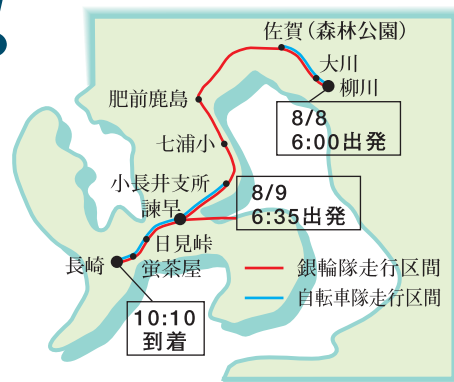
そして、今の「連帯」を表わしているのがカネシゲファーム・ルーラルキャンパス。研修生たちは地域に戻つて農業をすることを目標に、動力を必要としないラムポンプや養豚で発生するバイオガスを利用して農場を運営し、BMW技術を取り入れ、養豚や野菜作りで有畜複合農業を実践しながら、生き生きと学んでいます。

2007年にはパンダノンバランゴン生産者協会として正式に政府に登録し、家も修理でき、子どもたちは高校まで行けるなど、生活の質も向上しました。今後は、みんなでお金を積み立て、貸し付けするような助けあいの仕組みづくりも目標としています。

※自然の浄化作用をモデルに「バクテリア(B)の働きで、ミネラル(M)バランスに優れた、ウォーター(W)を作り出す技術

轉車隊

爆心地での「平和のつどい」では、原爆の犠牲となった方たちに祈りをささげ、東日本大震災の被災者にも思いを馳せて、「不戦」を誓いこれからも助けあっていこうと、心をつにしました。



A group of people, including a man in a white shirt and green pants leading a line of children on bicycles, riding across a large steel truss bridge. The man is wearing a white cap with a red band and a green armband. The children are also on bicycles, some with pink baskets. The bridge has a complex steel structure and a blue sky is visible in the background.

A circular inset photograph shows two children riding bicycles on a city street. The child in the foreground is a girl wearing a pink long-sleeved shirt, grey pants, and a white helmet with a red stripe. She is holding a white sign that says '原簿の' (Hakobon no). The child behind her is a boy wearing a blue and white long-sleeved shirt, blue pants, and a blue helmet. He is holding a white sign that says '長崎へ' (Nagasaki e). A speech bubble above them contains the text 'きついけど がんばるゾ！' (It's tough, but we'll keep going!).

1945年8月15日に第二次世界大戦が終わって66年目が経過しようとしています。66年前の8月9日、長崎に投下された原子爆弾で約7万3000人の命が奪われ、負傷者約7万5000人の人が被爆しました。たった一瞬で人間の尊い命が奪われました。原爆資料館を訪問するたびに、心の底がえぐられる悲しみと怒りを覚えます。原爆は絶対に許せません。人間を殺す兵器はあってはなりません。人間の命は守るために、生き続けるためにあるのです。私たちは、絶対に戦争を否定して無くすことを誓い、絶対に平和を守ることを誓います。

戦争は全人類の九分九厘の人が「無い方がいい」と願っています。しかし、意見の衝突や後から付けられるくだらない大義名分によって戦争が起きています。どのような理由であれ、正義を貫くためであれ、独立するためであっても、そのために相手を破壊していい、人間の命を奪っていいといった権利は絶対に誰にもありません。人は人間と人間のおふれだす愛情から産みおとされます。そして誰もが生まれた子どもに幸せに育て欲しいと願います。そのために日本はもとより、全世界で一切の戦争がなくなるように、私たちは訴え続けていかなければなりません。

もう、あのような惨劇を絶対に繰り返さないために、私たちは「不戦」のゼッケンを身につけて長崎の地まで強い気持ちで自転車で行きます。長崎の地までの約125kmを自転車で走る皆さんの頑張りと協力と思いやり、安全に現地まで走れるように準備してくださり、伴走して誘導してくださるスタッフの助けあいの気持ち、治道で皆さんの頑張りを一生懸命に応援する励ましの気持ちを融和させて、安全に元気に平和を願いながら、自分たちの生きる喜びと平和の素晴らしさをかみしめながら、頑張って長崎をめざしましょう。

生活協同組合連合会グリーンコープ連合専務理事
片岡 宏明

今から66年前の今日、ここ長崎に原爆が落とされ、多くの尊い命がうばわれました。

戦争で建物がかわれる、もえる。

戦争で家族や宝物、自由を失う。

戦争は人々への没



自転車隊代表
無名舎・こどもの家
迫 万純

私はおそろしい放射能
を出すげんばくも原発も
なくしてほしいと思いま
す。



自転車隊代表
無名舎・こどもの家
覚知 由季風

たつた一発の原爆が
うばつた命は、可十万



自転車隊代表
無名舎・こどもの家
岡 健太郎

ぼくは原子爆弾が使われ
ない世界になればいい
と思います。



自転車隊代表
無名舎・こどもの家
乗富 悠汰

ぼくは、原子力発電所はない方がいいと思います。

事故が起きればその近くの人たちは住めなくなってしまうからです。それに放射能が風に流されて遠くの人もひばくしたりするし海に流れて魚も食べられなくなるからです。



みんな同じ「不戦」のゼッケンをつけて、長崎まで走り抜きます



鹿島市の七浦小学校にて記念撮影

グリーンコープ共同体組織委員会主催
2011年度 第1回 平和学習会

2011年5月30日

2011年度の「共生・平和長崎自転車隊」の取り組み
に向けて、第1回平和学習会が開催されました。共同体
専務理事・東原晃一郎さんによる講演要旨を紹介します。

2011年
夏・平和

「不戦」を背

グリーンコープ共生・平和長崎自
第19回共生・平和銀輪隊 第24回共生・平和



平和のつどいでの挨拶

グリーンコープ共同体代表理事
田中 裕子

今年の自転車隊は、東日本大震災、
および東京電力の原子力発電所の
事故による被災者への思いも込め
て走りました。この2日間、人と
人とが支えあい助けあうことの素
晴らしさを、心と体で感じて過ご
してきたことと思います。このこ
とを忘れずに、明日からはじまる
日常を生きていきましょう。



銀輪隊、自転車隊が隊
ゴール地点の平和公園



午前11時2分 原



折鶴を奉納し、犠牲者へ祈りをささげました

生命と平和自体に価値がある。平和と共生は
二つにして一つ、グリーンコープのいのちです

はじめに

グリーンコープには平和
の定義という、決まりきつ
たものがあるわけではあり
ません。グリーンコープの
平和」とは、話を聞いたり、
自転車隊に参加したり、組
合員同士で考えたりする中
で各々の心の中にきざした
ものです。いろいろな出会
いを通して感じるもので、
心に響くものは定義などか
らは生まれません。私に
私にとつての平和は「戦
争のない状態」です。私の
日常が他者によって暴力的
に踏みつけられたりしない
また、自分が踏みつけるこ
とのない状態が平和であろ
うと考えています。

「平和」は日常を生きてい
けること、戦争が無いこと
なんだ

グリーンコープの平和に
ついての考え方は、鎌倉時
代の宗教家親鸞の教えを受

～自転車隊の取り組みを通して～

け継いでいつている面があ
ります。彼は「往生」とい
うことを真剣に考えました。
彼は「善人なおもて往生す
いわんや悪人をや(善人
さえ往生できるのだから、
悪人はなおさら往生でき
ると説きました。彼が結局
言いたかったのは、「良いこ
とをしたから救われるわけ
ではない、人間はそもそも
誰でも往生を遂げる主体
なんだ、そのままで生きて
いる価値を持つてゐるんだ
」ということです。親鸞のそ
の言葉を発する覚悟と、そ
のように説くことができる
人間への絶対的な信頼。こ
の二つが、グリーンコープ
の「生命と平和そのものに
価値がある、そのことをグ
リーンコープの平和と表現
する」ことにつながってい
ると感じます。

東日本大震災の支援で現
地に行ったグリーンコープ
職員は、人間の力ではどう

戦争を無くす努力と
その責任を自覚すること

人類史において、農業の
発明は最大の革命でした。
それによって、社会が急激
に大きくなりどんどん進化
していく条件を得ました。
一方で、生まれてきた富を
奪い合う状況も生まれ、戦
争も生まれました。

戦争の理由や条件を認識
できたら、それを無くして
いく努力ができます。また、
その責任を自覚することが
できます。組合員活動の根
拠にあるのは、問題だと
感じるものがあつたらその
条件・原因を考え、それを
無くしていく努力をするこ
とです。例えば、再生産可
能な価格設定をしていても
生産者が作り続けられない
状態になったら、生産奨励
金を設けて生産を継続でき
るようにします。地域福祉
で言えば、担う人材が育つ
ように条件を考え、財源は
みんなで出しあおうと福祉
活動組合員基金(100円
基金)をはじめました。

このように、戦争を無く
していく努力と責任は、す

平和へのアピール



銀輪隊代表
グリーンコープ
やまぐち生協
山下 凜太郎

僕は今年初めて銀輪隊に
参加し、みんなと励まし
あい、125km走りきる
ことができました。
僕たちの思いが亡くなつ
た人たちに届けばいいと
願っています。

犠牲は、常に若者や子ど
も弱者である。
だから僕は、こんな戦争
が起らないように不戦
を誓います。



自転車隊代表
無名舎・こどもの家
三小田 嘉子

平和の美しさ、戦争
のおろかさを、わすれ
ることなく、次の世代
に伝えて、もう二度と
戦争のない国にしたい
です。

人と言われます。たつ
た一つの大事な命を大
切にするために、戦争
はぜつたいにしたいは
いけないと思います。



自転車隊代表
無名舎・こどもの家
堀内 晴

私は、千葉から参加し
ました。三月の地震の時
には、停電やだん水があ
りました。夜は、お父さ
んが帰ってこられず、家
族ばらばらですごしま
した。
地震はとめることはで
きないけれど、戦争なら
やめられます。平和を考
えるために、来年もこ
こに来ます。

く体でも感じる機会が自転
車隊です。自転車隊を根
こにおいて上で平和論がま
とめられ、グリーンコープ
のいろいろな取り組みが考
えられてきました。

これからについて

グリーンコープの事業と
運動を切り開いていくグ
リーンコープ連合と単協とを、
共同体がいかにつないで
けるか。それができた時に
各地域の組合員の運動が大
きく広がり、グリーンコー
プを自分たちのものと感
じられるようになる。その
ような共同体が、自転車隊
の取り組みをみんなのもの
にするために存在し続ける
でしょう。

グリーンコープを船に例
えると自転車隊は錨、アン
カーです。グリーンコープ
は、たとえどんなマイナ
スを伴おうとも、平和と生
命そのものが大切なんだと
考える集団でありたい。そ
んなグリーンコープであり
続けるために存在してい
るのが自転車隊です。

※現世を去って仏の浄土に生ま
れること。特に、極楽浄土に
往つて生まれ変わるこ

2011年度 第2回 平和学習会

グリーンコープ共同体 組織委員会主催

2011年

夏·平和

日本の朝鮮植民地支配をふりかえる

日本の朝鮮侵略と支配の歴史

日本による朝鮮の植民地支配は、1910年から1945年までの36年間。20世紀初め、朝鮮が自らの力で近代化への道を模索している時にはじまった。

講 師

外村大
とのむらまさる

東京大学大学院
総合文化研究科
准教授



植民地支配の時期は3つに区分される。最初の時期は「武断統治期（1910～1919年）。日本の軍人が行政トップに立ち、言論・集会・結社の自由をすべて朝鮮人から奪って上から押さえつけた。朝鮮語の新聞は、朝鮮総督府の事実上の機関紙である一紙だけだった。だが1919年の^{※2}三・一独立運動をきっかけに、「文化政治期（1919～1931年）」に入り、それまでの厳しい統治が多少改められる。朝鮮人独自の文化活動や民族運動を行う余地が広がり、民間の朝鮮

語新聞の刊行も許可された。しかし警察官の数は増加し、村では村長より警察官のほうが権力を持っているという時代だった。そして最後が「兵站基地化政策期（1931～1945年）。兵站とは軍隊をバックアップするところ。1931年に起きた満州事変をきっかけに中国と戦争をはじめた日本のために、朝鮮全体を兵站基地にしてしまおうという政策がとられた。再び厳しい統制がはじまり、朝鮮語の新聞も一紙に逆戻りした。すべてが戦争中心の社会となり、朝鮮人も軍需生産のための労働力として駆り出されたり、兵士として動員されたりした。

日本による朝鮮支配の特徴的・本質的な点として、同化主義がある。朝鮮人に対して、「日本人になりなさい」という政策である。ま

ず非常に多くの日本人が朝

鮮に移住した。そして、朝鮮の中に日本人中心の街をつくりながら植民地化をすすめ、圧倒的な存在として力を見せつけていった。朝鮮王宮の目の前に建てられた朝鮮総督府の庁舎は、植民地統治の象徴でもあった。1940年代に入ると、朝鮮人を戦争へ動員するため、日本人への同化を徹底していく。朝鮮人に日本人の氏名を押し付ける「創氏の改名」も行われた。だが創氏改名して日本風の名前になったからといって、朝鮮人が日本人と平等に扱われたわけではなかった。朝鮮人の戸籍は日本人と別になられ、本籍地を朝鮮以外に動かすことはできなかった。なので、法的な区別は残った。

日本の植民地期における朝鮮社会

日本の教科書の中には、統計資料を基に、「朝鮮は、

日本植民地支配の時代に人口が増え、農地も広がった。たくさんの学校が建てられ、鉱工業生産も伸びたと書かれているものもある。しかし、統計資料を見る時は、その背景にある歴史を考える必要があることを忘れてはならない。

人口に関して言えば、増えた以上に、膨大な数の朝鮮人が日本や満州に流出した。特に地方で農民として暮らしていた20代、30代の



熱心に聞き入る学習会参加者



熱心に聞き入る学習会参加者

働き盛りの男性の多くが土地を失い、労働力として朝鮮の外に出て行かざるを得なくなつてしまつた。そして、日本人の大地主が農地を占領していった。また、兵站基地化政策のために鋳工業も発達したが、これらの開発は日本のための開発にすぎず、個々の朝鮮人にとって幸福なものだつたかという点では非常に疑問である。

朝鮮知識人の抵抗と「協力」

自力での近代化をめざすはずだったが、図らずも日本の統治下となつてしまった朝鮮。その中で、朝鮮の知識人たちは厳しい弾圧に抵抗しながらも、朝鮮社会の「遅れ」を自覚し、日本に協力せざるを得ない立場に追い込まれていく。彼らの悩みや日本の朝鮮支配が浸透していくようすが、一人の朝鮮知識人の日記を通して伺える。

別的な政策について批判もしているが、同時に、日本が欧米列強並みに近代化したことについては非常に高く評価している。そして日本人のように闘争心のある民族こそが国を強くできるという思想を強めていく。朝鮮民族の独立をめざす前に、朝鮮人自身が勤勉になり近代的な思想を身につけるべきだと繰り返し日記に書いている。植民地支配下で強力な日本を見せつけられるうちに自分たちの無力さを痛感した彼は、次第に日本に協力的な姿勢を示さざるを得なくなる。1940年には率先して創氏改名し、最後は貴族院議員になつた。

植民地支配の悲しさは、支配民族から支配する側の強さを徹底的に見せつけられることによって、支配される側が自分たちは無能だと思わされてしまうことである。アジア近隣諸国の人々にとつて、その深刻さは今日の日本人の想像をはるかに超えるものであり、その影響は植民地支配から解放された後も、長く尾を引いた。私たちはこのことをきちんと踏まえ、日本は民主主義を守り、平和主義を守

っていくという姿勢を伝えていかなければならない。

※
1
1910年の韓国併合条約
によって大日本帝国領とな
った朝鮮を統治するために
設置された官庁。主要なボ
ストはほぼ日本人が握って
いた

※2
1919年に朝鮮で起きた民族独立運動。3月1日に京城府内で独立宣言が読み上げられデモ行進が行われた。運動はその後国内外に広がり一年近く続いた。日本は武力で鎮圧したが、従来の統治政策の転換を余儀なくされた

近現代の日朝関係に関する主な事項

1876年	日朝修好条規締結、朝鮮にとって実質的な不平等条約となる
1894年	日清戦争はじまる
1904年	日露戦争はじまる
1910年	韓国併合条約締結
1919年	朝鮮で三・一独立運動起きる
1923年	関東大震災 日本人自警団により、在日朝鮮人や中国人が大量虐殺される
1931年	満州事変起きる
1937年	日中戦争全面化
1938年	朝鮮教育令改正 朝鮮語の授業を実質的に禁止
1940年	朝鮮で創氏改名を実施
1941年	アジア・太平洋戦争はじまる
1945年	アジア・太平洋戦争終結、日本敗戦 朝鮮が日本の植民地支配から解放される
1948年	大韓民国・朝鮮民主主義人民共和国樹立
1950年	朝鮮戦争勃発
1965年	日韓基本条約調印

ソウル市内タプコル公園にある
三・一独立運動のレリーフの一枚



その日記を残した尹致昊は、本来ならば朝鮮の大統領にもなっていたほどの人物と言われている。植民地化を阻止して朝鮮の自主的な近代化をめざそうと活動した。しかしそれが叶わず、人生の後半は植民地支配下の中で生きた人である。彼の思想は、その当時の社会、帝國主義を強く反映したものであった。

日記の中で彼は、日本人の朝鮮人に対する横暴や差

2011年6月21日
福岡市
参加者101人

楽しかった工場見学と
収穫体験

グリーンコープ生協
みやざき ゆうな
広瀬 佑菜さん(小5)

行って!見て!
たいけん綾!!

2011年 7月16日

みやざきとかごしまの単協から16組の組合員家族など58人が参加し、宮崎県綾町の生産者と交流しました

7月16日に「行って!見て!たいけん綾!!」に参加しました。
豚のえさ、お酢や冷凍野菜を作る工場の見学と、エリンギ、ごぼうの収穫体験をしました。
まず、豚のえさを作る工場の見学では、たくさん種類のえさがあり、米も粉さいしてえさにしていることを知りました。話を聞いて、私はグリーンコープの豚肉は、安心・安全でおいしいと、私にはたくさん食べました。

いいんだと思いました。次に、エリンギの収穫では、包丁で切るのはなかなかの部分がこわれないように手でやさしく取ることができました。土がやわらかくてごぼうはすっとぬけて楽しかったです。最後に、バーベキューがあり、豚肉も野菜もとてもおいしくて、私はたくさん食べました。
これからもグリーンコープの豚肉やエリンギ、ごぼうなどの野菜をたくさん食べたいです。
そして、今度もまた、このような体験があったら、参加したいです。

2011年
子どもたちの夏

今年も夏休みを利用して、グリーンコープの組合員の子どもたちが生産者との交流を体験しました。

岡山ふたみ牧場
ファームステイ

2011年 7月23日～7月24日

おかやまの子どもたち(小3～小6)15人が、産直国産牛の生産者を訪ね、牛の世話などを体験しました

初めてづくしの2日間

グリーンコープ生協おかやま
大寺 理登さん(小5)



最初に対面式をして、畜魂碑においのりをしました。ぼくたちが生きていくために死んでくれる命があると改めて実感しました。
子牛のミルクやりをしました。大勢人がきたので、びっくりしてなかなか飲んでくれませんでした。松下さんが、「いつもは、置いていたから飲んでくれるのね」と言っていました。やつと飲んでくれたと思ったら、さっき飲んだ牛に横取りされてしまい、こわがっていた牛はあまり飲めませんでした。2日目は子牛のえさやりをしました。重さを量ってト



今年で5回目となる岡山ふたみ牧場でのファームステイ。参加の子どもたち、私たち組合員の今年の夏の大切な思い出の2日間となりました。

産地で「生産」のを知ることで、「いのち」をいただくことを改めて実感できたように思いました。これからも生産者と組合員とで「いのち」ある食べものを大切にしていきたいです。

グリーンコープ生協おかやま ファームステイ実行委員長
藤原 恵美さん

ウモロコシ類をあげました。1日目はこわがっていた子牛も、おいしそうにたくさんがつがつ食べていました。この2日間とても命の大切さを実感し、食べることのありがたみを知りました。そのことを感じながら、これからは牛さんの肉をかみしめて食べたいです。牧場の方は、こんな大変な仕事を毎日やっていますか、と思います。ぼくは

たら、2日間でたくさんでした。リーダーとしても、だいたいぶ列をならべたり、うまくできたと思えました。色々楽しいようなつかれたような2日間でした。

ピョンファ・エ・ダリ(平和の橋)
韓国への旅

第15回

2011年7月23日～7月25日



独立記念館を訪れた時に最初に目にする「同胞(キョレ)の塔」の前で。後方一番右が手島奈美さん

互いが分かちあえば
平和は実現できる

グリーンコープやまぐち生協

手島 奈美さん

ピョンファ・エ・ダリ(平和の橋) 韓国への旅に参加しました。
福岡空港を飛び立つて約1時間でソウルへ到着しました。ソウルの街は私の住むところとは大違いで大都会でした。片側5車線もの車道が延々と続き、数十階建てのマンション群が建ち並んでいたりと、大規模な繁華街があらちちに点在しており、どこの観光名所も賑わっていました。高度経済成長の勢いは止まらないようでした。

初めに独立記念館へ行き

ました。400万平方メートルの広大な敷地内に第1〜第7まで、それぞれのテーマで構成された展示館があり、帝国主義時代の日本に侵略され、その植民地支配に対抗した独立運動のようすを知ることができました。午後はドウレ生協を訪ねました。「私たちは家族のような関係です。生命を守るといふ基本の考えは同じです。グリーンコープの教訓が私たちの源となっていて、子どもたちの未来のために、平和という大きな目的に向かって親睦を深めていきましよう」と心のこもった歓迎を受けて、楽しいひとときを過ごしました。次の日は西大門刑務所へ行きました。日本による残酷な支配のようすや独立運動の歴史を目の当たりにしました。親子連れの多さに

驚きながら、私たちの心は沈む一方でした。次に訪れた「ナヌムの家」では、ハルモニたちが私たちを迎えてくださいました。しっかりと手を握りしめて、「よく来たね」と子どものような素朴な笑顔で抱きしめてくれました。消し去りたい過去の想い出などまったく感じられず、ただただ戦争の起こらない平和な世の中を願うばかりでした。夕方からはハンサリム生協との交流会です。市内の公園の中にあるレストランを借り切って行われました。お互いの紹介の時点で、すべてを受け入れていただいていることが伝わってきて、涙がこみ上げてくる場面もありました。「グリーンコープの皆さんは、15年間一度も欠かさず、この活動を続けてこられ、重たい歴史に勇気を持って向きあっている姿に敬意を表します」。そう感じている韓国の生協



ハンサリム生協の皆さんと一緒に。言葉の違いを越えて、しっかりと心が通じあうことができました



ドウレ生協の交流会では、参加者全員で平和を祈るタペストリーを作りました。日本語や韓国語で思い思いに、平和への願いを込めたメッセージを書きました

の皆さんを尊敬し、私もグリーンコープに関われていることに誇りを感じました。今回の旅で平和を願う一方で、なぜ人は戦争をするのだろうと考え続けましたが、歓迎を受けることで救われました。やはり、人と人の関係が一番だと思えます。きちんと訪れて互いが分かちあえば、平和は実現できると確信しました。

人と人との絆を結び 伴走してきた「抱樸館福岡」

～人と人が助けあう「共助」のシステムを地域の中に作りあげてきました～

ほうぼく
「抱樸館福岡」
1周年
報告・記念講演会

2010年5月1日、福岡市東区多の津に開所した「抱樸館福岡」は、命の危険にさらされている生活困窮者に対して、あらゆる相談を受け付け、住居を提供し、就職や福祉手続きなどの自立支援を行うホームです。物理的な「ハウス」であると同時に、入居者と地域の人たちがつながる「ホーム」となることを願いスタートしました。2011年7月29日に開催された「抱樸館福岡1周年 報告・記念講演会」には、行政関係者、地域住民代表、福岡自立支援居宅協力者の会、社会福祉法人グリーンコープ関係者、組合員など約130人が参加し、1周年を祝いました。挨拶と記念講演の一部を紹介します。

※1 第2種社会福祉事業、無料低額宿泊施設

新たに仕事を
創り出す



社会福祉法人グリーンコープ理事長
行岡良治さん

はじめて受け入れた入居者は10人で、その後徐々に増やしていききました。時間をかけてスタッフと入居者との関係をつくっていききたいと考えたからです。それには半年位かかりました。昨年11月から就業準備訓練としてファイバーリサイクルの仕事をはじめ、うになり、抱樸館の雰囲気が変わってきました。汗を流して働くという日常を獲得すること、人と人とは前向きに関係をつくっていきけるのだと思います。

※2 「樸（ぼく）」は荒木（あらき）。すなわち原木の意。「抱樸」とは、原木・荒木を抱きとめること。老子のことはより

「抱樸」という意味を
心に刻んで



社会福祉法人グリーンコープ副理事長
北九州ホームレス支援機構理事長
奥田知志さん

人間そのものが排除されていくような時代を迎えようとしています。その中で、抱樸という言葉の意味、この建物が体現しようとしている事柄の意味を深く心に刻んで挑戦していききたいと思っています。

一番苦しんでいる人、一番しんどい思いをしている人のところからこの世界を見直していく、その目線から私たちは見ていく、そういう抱樸館でありたいと思っています。



抱樸館福岡外観



入居者のいこいの場になっている庭

記念講演

地域社会における包摂の取り組みをめざして

～抱樸館福岡に期待するもの～



厚生労働省 社会・援護局
福祉基盤課 課長補佐
荒川英雄さん

これからの国づくりのあり方として提示された「新しい公共」がめざすのは、「二人ひとりに居場所と出番があり、人の役に立つことの幸せを大切にする社会」です。そのためには、国民

の多様なニーズにきめ細かく応えるサービスを、市民企業、NPO等が無駄のない形で提供することが求められています。奥田さんがはじめたホームレス支援は国をも動かすものでした。抱樸館福岡ができて1年が経ちました。これからは、そこに関わる人や地域で暮らす人々が、数々の経験を蓄積し、次の成長につなげていくことを期待しています。



福岡自立支援居宅協力者の会を代表して、山崎孝徳さん
(株式会社ワイズプランニング代表取締役)



福岡市東区多の津5丁目町内会の皆さんを代表して、吉田学さん

抱樸館の取り組みに大きく貢献していただいた町内会の皆さんと、福岡自立支援居宅協力者の会の皆さんへ感謝状を贈呈

抱樸館のこれまでの歩みと、
これからめざそうとしているもの



抱樸館福岡館長
青木康二さん

うは、よいことばかりではありません。時にけんかをしたり、傷つけたり、傷つけられたりしながら、入居した一人ひとりが人としての絆を取り戻していったように思います。

また、地域への働きかけとして、小学校でホームレスの授業を行いました。子どもたちからは、これまで特別視していたホームレスの人たちについて「もっと知りたい」「役に立ちたい」「抱樸館に行きたい」との声が聞かれました。

支援の輪の広がりとともに、不動産関係9社からなる「福岡自立支援居宅協力者の会」には、アパートのあつせんから退居後のサポートをしていただきました。アパートでの暮らしぶりや見守りの情報を共有化でき、地域で暮らし続けることを応援する取り組みもできてきました。

この1年間、抱樸館がたくさんの方に支えられ、存在してきたことを改めて実感し、感謝の気持ちでいっぱいです。これからも、安心安全な地域社会、「ホームレスを生まない社会をつくる」ことをめざして一緒に歩んでいきたいと思っています。



園芸部が育てたトマト

子育ての新たな支援 はじまります

グリーンコープとして初めての認可外保育所「げんきの森こども園」を開設しました。グリーンコープはこれまで子育て支援ワーカーなどで子育て支援に取り組んできましたが、保育所という新たな支援に取り組むことになりました。7月23日の開園式を取材し、開設までの経緯と、関係者の保育所への思いを紹介します。

「げんきの森こども園」は熊本市内の静かな住宅街にあります。広い庭のある築40年を超す一軒家を借り受け、保育所に改築しました。昔ながらの広い縁側や手押しポンプの井戸などはそのまま活用。子どもたちが走り回ったり、砂遊びをしたりもできるように庭も整備しました。庭には、柿

夢がいっぱい詰まった保育所です

「げんきの森こども園」は、くまもとの子育て支援ワーカーズ「あ・は・は」と「ペペべらん」で保育所に携わりたいと手を挙げたメンバー9人が運営します。「生きる力があり」「自分で考え表現でき」「やさしく思いやりがある」そして「いのちを大切にする」子どもの育成をめざします。

給食・おやつはグリーンコープの食材を中心に作り



園長の大林和子さん

熊本に認可外保育所を開設するという話が持ち上がったから1年半、開設までには本当にさまざまな検討課題がありました。積み木を一つひとつ積み重ねるように検討を重ねてきたというのが実感です。年度途中の開設ということもあり、まだ今は入園する子どもは少ないのですが、これから園児が増えていくことが一番



社会福祉法人グリーンコープ
理事長 行岡良治さん

開設にあたって

グリーンコープの前身となった生協は、母親たちの「子どもたちに安心・安全な食べものを」という願いから誕生しました。それ以降、グリーンコープは時として「商品」になつてしま

への対応の方が、より急がざるをえない状況でした。ようやく今になって、子育て支援の分野の第一歩として、「げんきの森こども園」の開設を皮切りに、「子育てへの取り組みを本格的に開始できることになりました。私は、「食べもの」と「子育て」は本質的に通じあっていると思います。母親たちが子どもたちに与えたいと願っている「食べもの」のあり方と「子育て」のあり方、あるいは「教育」のあり方は、同じものであると思います。「子育て」も「食べもの」と同じで「商品化」してはだめなんです。専門家が中心ではなく、母親と子どもが中心の「子育て」を行いたいと思います。その出発点の一つがこの地になります。



普通の民家を改築しました



手押しポンプの井戸



園長と8人の
スタッフ



大きな木も残した広い庭

東京電力の原子力発電所の事故を受けて行った残留放射能検査結果④

6月24日～8月17日までに検査した54品目の調査結果を報告します。2品目についてはグリーンコープの暫定基準値(10Bq/kg)内の残留放射能が検出されています。8月号の検査結果③に掲載した「さくらんぼ(長野県 飯綱)」は「さくらんぼ(ながの農協飯綱)」でした。

商 品 名	製造日等	検査日 (送付日)	放射能検査結果 セシウム134(Bq/kg)	放射能検査結果 セシウム137(Bq/kg)	商 品 名	製造日等	検査日 (送付日)	放射能検査結果 セシウム134(Bq/kg)	放射能検査結果 セシウム137(Bq/kg)
韓国味付のり胡麻風味	2011年6月 8日	6月23日	検出せず	検出せず	韓国味付のり胡麻風味	2011年7月 9日	7月22日	検出せず	検出せず
三陸産わかめ 1kg	2011年5月30日	6月 9日	検出せず	検出せず	贈)ダグワース結合せ	賞味期限(2011年9月1日)	7月22日	検出せず	検出せず
八女星野煎茶 200g	2011年6月13日	6月25日	検出せず	検出せず	メロン(北海道産)	2011年7月15日	7月22日	検出せず	検出せず
ひじきがんもの野菜あんかけ	2011年6月23日	7月 1日	検出せず	検出せず	ジュース用(加工用)トマト(長野県産)	2011年7月24日収穫	8月 2日	検出せず	検出せず
お弁当用ミニハンバーグ8個(200g)×5	2011年6月17日	7月 4日	検出せず	検出せず	ずもも(太陽)山梨県産		8月 2日	検出せず	検出せず
贈)ダグワース結合せBのマカロニ	賞味期限(2011年8月1日)	7月 7日	検出せず	検出せず	骨ごと食べられる さんまみそ煮	2011年6月20日	8月 2日	検出せず	検出せず
産直国産牛得々パック800g	2011年6月28日	7月 7日	検出せず	検出せず	ハローキティかぼちゃと大根葉のせんべい	2011年7月 6日	7月21日	検出せず	検出せず
五目寿司の素	2011年6月 9日	7月 8日	検出せず	検出せず	ハローキティゆきひかりぼん		7月21日	検出せず	検出せず
国産ピーナツクリーム135g	2011年3月31日	7月 8日	検出せず	検出せず	フイヤーベースェット(スープ付)	2011年7月15日	7月27日	検出せず	検出せず
銚子沖産真いわし開き	2011年6月 9日	7月 8日	検出せず	検出せず	桃 (信濃五岳会)	2011年7月24日収穫	7月28日	検出せず	検出せず
国産黒豆きなこクリーム135g	2011年4月 9日	7月12日	検出せず	検出せず	桃 (やまなし自然塾)	2011年7月24日収穫	7月28日	検出せず	検出せず
骨ごと食べられる カタクチイワシみそ煮	2011年6月 3日	7月14日	検出せず	検出せず	りんご (信濃五岳会)	2011年7月24日収穫	7月28日	検出せず	検出せず
えびといかの彩り焼き	2011年7月 7日	7月15日	検出せず	検出せず	ネクターリン (信濃五岳会)	2011年7月24日収穫	7月28日	検出せず	検出せず
骨ごと食べられる カタクチイワシみそ煮	2011年5月10日	7月15日	検出せず	検出せず	産直赤とんぼ米の鶏ごぼうピラフ	2011年7月22日	8月 2日	検出せず	検出せず
細切りしいたけ(原料)	2011年3月以降収穫分	7月15日	検出せず	検出せず	産直赤とんぼ米のライスバーガー牛肉玉ねぎ	2011年7月22日	8月 2日	検出せず	検出せず
大分県産徳得原木乾しいたけ(原料) 1kg	賞味期限(2012年4月29日)	7月15日	検出せず	検出せず	腐葉土	1号・16号企画			検出せず
国内産お徳用小さい乾しいたけ(原木)(原料)	賞味期限(2012年7月6日)	7月17日	検出せず	検出せず	韓国味付のり唐辛子風味	2011年7月21日	8月 4日	検出せず	検出せず
産直たまご(山口県産)	2011年7月14日	7月20日	検出せず	検出せず	ピオーネ (やまなし自然塾)	2011年7月30日収穫	8月 6日	検出せず	検出せず
産直たまご(熊本県産)	2011年7月14日	7月20日	検出せず	検出せず	甲斐路 (やまなし自然塾)	2011年7月30日収穫	8月 6日	検出せず	検出せず
産直興農牛小間切300g(北海道産)	2011年6月28日	7月 5日	検出せず	検出せず	甲州ぶどう (やまなし自然塾)	2011年7月30日収穫	8月 6日	検出せず	検出せず
国産牛ロース切落し原料肉(茨城県産)	2011年5月24日	6月 9日	検出せず	検出せず	ぶどう(マニキュアフィンガー)(やまなし自然塾)	2011年8月7日収穫	8月12日	検出せず	検出せず
国産牛ロース切落し原料肉(宮城県産)	2011年5月24日	6月15日	検出せず	検出せず	ブルーン (ハケタ会)	2011年8月6日収穫	8月 9日	検出せず	検出せず
国産牛ロース切落し原料肉(群馬県産)	2011年5月24日	6月16日	2Bq/kg	7Bq/kg	ブルーン (ながの農協飯綱)	2011年8月6日収穫	8月 9日	検出せず	検出せず
国産牛ロース切落し原料肉(栃木県産)	2011年5月24日	6月16日	検出せず	検出せず	梨(南水) (ながの農協飯綱)	2011年8月6日収穫	8月 9日	検出せず	検出せず
国産牛ロース切落し原料肉(群馬県産)	2011年5月24日	7月 7日	検出せず	検出せず	パブリカ (ながの農協飯綱)	2011年8月6日収穫	8月 9日	検出せず	検出せず
国産牛赤身切落し(小分けロール)原料肉(群馬県産)	2011年5月24日	7月 7日	検出せず	検出せず	りんご (ながの農協飯綱)	2011年8月6日収穫	8月 9日	検出せず	検出せず
コールスロートドッシング	2011年5月23日	7月21日	検出せず	検出せず	桃 (ながの農協飯綱)	2011年8月6日収穫	8月 9日	検出(1～5Bq/kg)	

検査対象エリア グリーンコープは商品や原料について放射能汚染が心配される地域を関東から東北地方と考えています。文部科学省から出されている(新聞で報道されている)大気中の「環境放射能水準調査結果」を基礎に、通常レベルより高いエリアについても検査対象としています。なお、対象エリア以外の商品でも、牛乳など日常的に多く取り入れる商品及びしいたけ等放射性物質が蓄積しやすい商品は検査することとしています。

※水産物については、近隣海域の放射能汚染状況が調査・公表されますので、その情報などをもとに漁獲海域によって、残留放射能検査をする対象を判断していきます。

検査対象 3月11日以降に、生産・製造・保管されていた商品及び原料を順次検査しています。

検査機関・検査日 「放射能汚染食品測定室」で行いました。表中の「検査出荷日」は検査のためにグリーンコープから、測定室に検体を発送した日です。到着後、2日以内に検査を行っています。

測定結果の表記について 検査商品の検出限界値は、精密には特定の検体を測定することに異なります。したがって、放射性セシウムの測定結果の表記について、0～1Bq/kg以下の場合には「検出せず」、また、各検査商品において検出限界値以下の検査結果の場合にも「検出せず」となります。検出限界値を超えた測定値で5Bq/kg未満の場合は、「検出(1～5Bq/kg)」と表記します。

今後の報告について ・毎月、「共生の時代」で報告します。(ホームページには、週単位で掲載します)

・グリーンコープの基準値(放射性セシウム10Bq/kg)を超える残留放射能が検出された場合は直ちに報告します。

げんきの森こども園

〒860-0053 熊本市田崎1丁目5-12
TEL:096-227-6520



No.37

放射性物質について

原子炉でウランを燃やして核分裂させると「核分裂生成物」という放射性物質が何百種類も作られます。今、東京電力福島第一原発から、大量に環境へと拡散しているのは「ヨウ素」と「セシウム」です。これらは、飛び散りやすい性質を持っており、環境中に広く出たしまったと思われます。

また、比較的飛び散りにくいものに「ストロンチウム」「プルトニウム」があります。これらは生物学的な毒性が大変強く、一度環境に出てしまうとより深刻な汚染を引き起こす物質です。

放射性物質は、それぞれ異なった性質を持っていますが、人など動物に体内被曝、体外被曝を起こしたり、植物や大気、海洋や川、大地を汚染することはまちがいありません。子どもたちに、みどりの地球をみどりのままで手渡すためにも、原発のない社会をめざしていきましょう。

参考文献：小出裕章氏「原発のウソ」

グリーンコープ共同体組織委員会

幸せなお産と子育てを願って

いま地域を考える

No.216



7月3日のパネルディスカッションに集まったメンバー



左から宮原さんと坂之上さん

NPO法人 Reばーす

1994年、「優しいお産」をテーマに東京でイベントが開催され、11月3日を産む立場の女性に優しいお産を考える「いいお産の日」にしようという呼びかけがありました。多くの母親たちが呼応し、各地に実行委員会が立ち上がりました。

2003年、鹿児島でも助産師や助産院で出産した母親たちを中心に、「いいお産の日inかごしま実行委員会」が立ち上がりました。産む喜びを感じることができ、お産のあり方をテーマに取り組みを行ってきました。2010年、子育て支援にも活動を広げようと、「特定非営利活動(NPO)法人Reばーす」(以下、Reばーす)となりました。

理事長の宮原多恵さんと副理事長の坂之上綾乃さん(ともにグリーンコープかごしま生協の組合員)に話を聞きました。

「お産って、大変だよ」で過ぎてしまふのはもったいない

お産は女性にとっては生涯を通してかけがえのない貴重な経験だが、プライベートな部分も多く、問題があっても見えにくいのが実情だ。

3人の子どものいる宮原さんも悔いの残るお産の経験の持ち主だ。「初めてのお産では、疑問や希望をきちんと医師に伝えることもできず、やむなく帝王切開。その経験から2人目の子どもの時から、医療的処置はできるだけ避けたいと伝えたくて、あんなに受け止めてもらえず、う

さい妊婦という感じで対応されてしまつて…。お産はわが子の誕生という、他に比べようのない大切なことなのに、私にとっては、胸の中のしこりとなって残ってしまいました」。宮原さんはその経験から、「いいお産の日inかごしま実行委員会」に設立当初から参加した。

坂之上さんのはじめてのお産も自分の持つていたイメージとはずいぶん違っていた。2人目の時には、長男の子育て仲間の情報から助産院を選んだ。助産院では、妊婦の気持ちに添った、ゆったりとしたお産をすることができた。お産直後でも、こんなお産ならもう1人産んでもいいと思えるものだった。「私もそうでしたが、普通自分がどのようなお産がしたいかというイメージを持つていた人は少ないです。『いいお産の日』の取り組みでは、できるだけ多くの人に、必要のない医療処置は避ける方法もあるなど、お産についての情報を届けた。また、お母さんが主体の幸せなお産というの、どういうお産なのか、お母さん自身にも考えてもらう機会にしたい」。坂之上さんは、そうした思いから2007年にメンバーとなった。

お産について、さまざまな視点で考える

2011年の取り組みの一つとして、鹿児島市で7月3日にパネルディスカッションを開催した。その日は、自然分娩に取り組む医師とそこでお産する女性たちの姿を取材したドキュメント映画「玄牝」を鑑賞し、



Reばーすが発行しているお産BOOK 2冊目の発行



お産の計画、病・産院アンケートの情報、母乳育児についてなどが掲載されている

その後パネルディスカッションが行われた。パネラーは、子育て支援を担当する鹿児島市の職員、メンバーでもある助産師の育成に携わる大学の教官や助産師、双子を持つお父さんや子育て中のお母さんの5人。「お産は医療なのか文化なのか」という問いかけや、お産が母子の生命に関わるという意味合いでの医療のあり方、産む性としての自然な姿でのお産の大切さなど幅広い意見交換があった。参加者からは「お産について考える良い機会を得た」と感想が出されている。

また、ほぼ毎年講演会や「お産を語る会」を開催している。「お産を語る会」では参加者が車座になり、自分のお産について話をする。そのことが、傷ついた気持ちを癒すことになったり、お産だけに留まらず自分自身を振り返る機会となっている。

これまでに行った対外的にもインパクトのある取り組みとしては、病・産院アンケート調査がある。2010年には、鹿児島県内の64の病・産院にアンケート調査を依頼。14件の回答を得た。調査の内容は

お産に対する方針や分娩時の医療処置の頻度など。「調査活動は、お母さんたちが関心を寄せているというアピールにもなります。また子宮収縮剤や陣痛促進剤の使用などの医療処置が、安易に行われることを医療機関にも考えてもらうきっかけになるんじゃないかと思っています。何よりこれから出産する女性たちにとってはとても参考になると思います」と宮原さん。

お産についてばかりではなく、お母さん自身のための心のケア「命の声を聴く自己トレーニング」にも取り組む。ヨガを取り入れ、自分自身を認め、癒すワークシヨップだ。このトレーニングを受けると、子どもや他人にも優しくなれると、子どもを持った若いお母さんたちに大変喜ばれている。

子育てなど新たな分野にも

どの医療機関でも、産む喜びを感じるお産ができるようになることが活動の大きな目標だ。それは、自分の子ども、またその子どもと繋がる女性の問題であり、「Reばーす」の中心テーマであることは常に変わら

2011年7月の組合員数 394863人 (7/20現在)

リユースリサイクルデータ 2011年6月分 リユースびん 回収本数 196,569本 回収率 62.7% モールドパック 回収重量 32,990kg 回収率 110.7%	牛乳びん 回収本数 902,448本 回収率 99.2% (5月15日～6月18日回収分) トレー 回収重量 11,605kg 回収率 57.9% 仕分け袋 回収重量 1,412kg 回収率 7.0%	フードマイレージ 2011年7月までに組合員の利用によってたまったのは 117,778,744.6 CO ₂ に換算して11,777トン削減したことになりました アジア民衆基金 2011年7月までに組合員の利用によってたまったのは 17,592,176円
---	--	--

放射能汚染測定結果は、7面の残留放射能検査結果に記載しています。

ない。しかし、メンバーの子どもたちも日に日に成長し、子育てに関しての取り組みの必要性も出てきている。すでに、母乳育児などに取り組んでいるが、今後はもっと幅広い子育て支援を通して、お母さんを応援していきたいと思っている。今年度は、乳幼児のためのおもちゃ作りや母乳パッド作りなども予定している。また、出産時の問題だけではなく、死産や障がいのある子どもの誕生などもある。ピアカウンセリングなどを充実し、そうしたことにも関われる活動にしたいと考えている。

「Reばーす」とは、Ree(繰り返す)と、誕生を意味する。子どもを授かるという意味だけではなく、私たち母親が生まれ変わって、新しい何かを生み出していききたい。また、小さな川が大きな海につな

り、その海のうねりが大きな活動のエネルギーとなつて、広がっていくように」という願いを込めてメンバーみんなで名付けた。

現在、登録メンバーは23人だが、実動しているのは10人ほど。「お母さんたちが手弁当で細々と取り組んでいるような状況。大きな団体にならなくてもよいが、充実した取り組みを継続して、少しずつでもお産に関してお母さんたちの気持ちを広げていきたい。また、医療の現場もお母さんたちに寄り添う方向で変わって欲しい」と宮原さんは願っている。

※1 老子の「谷神は死せず。是を玄牝と謂う」という言葉から、大河の源流にある谷神は、とめどなく生命を生み出して尽きることはない。これを神秘的な母性と呼ぶ。という解釈

※2 同じような悩みや経験を持つ仲間同士が対等な立場で行うカウンセリングのこと